

「忍者、参上！」

「川津の巻」

11/30(土)

12:30-14:00

(おとな忍者参加者は10時半～)

川津小学校多目的室・中庭

参加者:

松江市内の小学校1年生～4年生 43名

5年生 2名 6年生 1名

おとな忍者参加者15名(うち中学生3名)

講師:NPO 法人あそび環境 Museum アタフバーバン

平川恭子さん 北崎圭太さん 石井美津子さん



雪起こしの雷が鳴る前日までの悪天候にしんばいしましたが、一転小春日和の忍者川津の巻の日となりました。一同ほっとしながら会場入りです。

おとなスタッフは9時前から新聞のチャンバラ剣づくり、10時30分からはおとなスタッフ講座も始まりました。そして手に手になんだか持参の品も。

初顔合わせのおとながまずお互いの緊張をほぐし今日の事業を共に進める仲間になるワークです。普段の生活からは見られない「素」の一面、新たな一面に笑い声と共にお互いの垣根も低くなり、旧知のように親しくなります。仕事も個人の背景も関係ないその人らしい時間がおとなにも流れます。今日は中学3年生男子3名もおとなスタッフとして参加です。どんな表情と関わりをみせてくれるか、楽しみです。

今日の子どもたちの修行の内容を聞き、おとなだけでちょっとやってみます。これはおもしろい！子どもたちがどんな発想をするか楽しみです。

12時をまわり、子どもたちがやってきます。受付でなその紙をもらいポケットにしまうと風呂敷を頭に巻き忍者に次々と変身、ワクワクする気持ち、ちょっと緊張と不安な気持ち、いろいろな気持ちを交差させながら会場にはいります。

3人の忍者の話と見る修行・聴く修行、おかしさ、おもしろさに、緊張した顔が笑顔になり笑い声が大きくなります。見ているお父さんおかあさんも「なんだかとても楽しそう」と会場全体がなごんでいきます。



なぞの紙は その日のチームわけの暗号。「あ」組から「し」組まであいうえお順に学年ごとのまとまりにおとな忍者が1名・2名と入ります。自己紹介をし、ここからはチームで修行が続きます。なんの匂いかなと匂い当ての後は山になったりお地藏様になったり岩になったり・・・岩はがしの修行あたりから一体感は増していきます。おとなの鼓動、子どもの鼓動、手のぬくもり、しがみつく子どもの愛おしさ・・・何度やってもたまらない安心感・信頼感が一気に増すワークです。



そして場所を外に移し、今日の一番の修行「お宝さがし」へとすすみます。各チーム紙に書かれた絵、イラスト>を手がかりに中庭からそれを見つけてこなければなりません。絵をみただけでは「なんだ？これ・・・」（黒く塗ってあらわしてあるものがほとんどなので検討が付きません）「これなんだ？茶笥じゃない？」「茶笥なら先が丸くなってるよ、違うよ、なんだろう」「ほうきじゃない！？似てるよなきがする」イラストだけでは全くなんなのかわからないチーム

だらけです。しかも見つけても黒忍者にみつきり没収されたらいけません。謎の絵にも次々と自分の考えをだしていきます。どこのチームもにぎやかです。

なにはともあれ、さがしにいくぞーっとチームでまとまりながら広い中庭に飛び出しすチーム、みんなで出たのにバラバラになってしまいあわてるチーム・・・、中庭は思ったより広い広い！”もことたちはあちこちと走り回ります。「こっちこっち！」おとな忍者の足を気遣い待っていてくれる子ども忍者たちの優しさが身に染みます。

「きたぞーっ！」黒忍者が近づくと緊張感で空気が一変！なんだかとっても怖い！チームで固まって壁に変身したりお地藏さまになったり、おとな忍者の手をギュッと握りしめる子どもいます。「あっ、あっちに黒忍者いったよ、今だーっ」「ここになんかあるよ」「うちのこんなやつみなかった？」「それ、さっきあそこんどこになんかあったよ」「あーっ、あったあった！」「あっ、似てない？絵と」。チームでそして他のチームとも関わらなければ探せません、黒忍者のようすもわかりません。それぞれが自分らしく仲間と関わります。おとな忍者もおとなとして指示するのではなく共に考える仲間として接



します。子どもの声を大切にします。やっとお宝らしきものを見つけたチーム、「あれ？間違いはないとおもうんだけどお宝の印【忍】の字がない・・・」「あっ、おなじものが他のところにもあったよ」「もう一回いってみよう！」



なんとか全チームそれらしきものを探し出し集合します。これでおわりかとおぼつたのもつかの間、次のお題がでました。

黒忍者の関所を越える。しかもたとえば「ほうき」は「ほうき」ではなく「これは〇〇〇です」まったく違うものにして通過しなくてはなりません。さあ、12チーム、ここから想像力を駆使します。

最初のチームは「帽子」を「UFO」に・・・宇宙人まで飛び出し動き踊るようすに、みんな大爆笑！このチームのうまさにつられたかみんなの熱演が続きます。

木馬チームが「お殿様」を「松江城におつれする！」といったところからみんなの心に火が付きます。後に続く全チーム「それでどこに行くのじゃ？」と黒忍者に尋ねられれば「松江城へ」「お殿様にみせに松江城へ」と物語のように「松江城へ」が続き、みていた全員、チームが通過するごとに、その想像力と機転に大爆笑！全12チーム無事通過、お互いへ、そして子どもたちへ拍手の嵐です！



おりたたみ傘はパラボナアンテナ・・・受信チャンネルで番組もダンス天気予報に早変わりの熱演！

竹ほうきはギターに、金たらいは太鼓になりました。
エンタタテイメントたち行く先は、もちろん松江城！



火起こしはヨットと弓の2段階作戦！弓はもちろんお殿様を守るため！松江城へ向かいます！



スリッパ立てはかぼちゃの馬車、行き先は松江城！



譜面台は 物干しのパラソル、松江城！に持参



釜をかぶるとロボットに・・・松江城でとのさまへ！



籠をつけたら「カメ」浦島太郎も登場、竜宮城へおつれします。
竜宮城は何処に？ はっ、松江城に！



安来節のびくとざるは、しゃぶしゃぶの鍋に・・・松江城の殿様に「しゃぶしゃぶ」を・・・
ふるいは太鼓です。プラバホールで出演後は松江城で殿さまにご披露いたします！





最後は時間オーバーの中、チャンバラ修行！ 子どもVSおとな、46人对15人！相手チームに攻め入り、みどり、黄色の風呂敷（旗）を先にトマトコロコロ忍者にとどけた方が勝ちです。攻める人、守る人、それぞれ決まりいざ決戦！子どもチームの思いがけない鉄壁の守りに苦戦するおとなチーム。半端な和でない子ども忍者もおとな忍者の守りには大苦戦！

前は霧囲気に圧倒されて人の影にかくれうしろからやっとの思いでついていった子どもは今回は先頭をきって飛び出す姿、反対にいつも活発な男子がみんなのうしろにかくれるようにしてこわごわ戦う姿、おとな忍者もおとななんてことは忘れて、対等に戦います、あそびモード全開なおとなに子ども忍者たちの顔が輝きます。



こんなあそび、私たちの小さいころは当たり前でした。いつしか群れてあそぶことも新聞紙などというものはあそび道具から消えてしまいました。でもきょうは、心も大きく開き、空に地に向かい大きな声が飛び交います。全身で跳ねまわります。みんなの短い至福のときが流れます。あそびの持つ大きな力、そのなかで学ぶものの多さ、もっともっとこんな時間を子どもたちに持ってほしい・・・生きているということを感じてほしいと願います。



そして大きな勝利の声は子どもチームから！最後は修行の証「巻物」をお頭様からいただき修行終了となりました。



チームの仲間を信じ共に進む力、想像力、向かう気持ち！愛おしいと思う心！ はじける心と楽しむ力！

力は己(おのれ)のなかにあり！



<感想・ふりかえり>

・親子ともども大満足で帰りました。初めての忍者修行でしたが改めて子どもたちは楽しむことの天才だと思いました。子どもたちのワクワクきらきらした姿に私も純粋に楽しむことができました。おとなだからとか、親だからとか、知らないうちにたくさんの枠を創ってしまっていたことにも気づけた体験でした。子どもたちの笑顔や素直で柔軟な発想に心を洗われた一日でした。息子と同じ目線で物事をみていると、問題だと感じていたことや疑問に思っていたことが嘘のように無くなっていることにも気づきました。この経験と気づきはこれから対子どもとの接し方の変化にも繋がっていくのではないかと思います。

・子どもたちの想像力、アドリブ、みんなすごいすごい！子どもたちのキラキラした顔がまぶしくて本当にステキな時間でした。

・4年生4人についていましたが4人のやんちゃぶりに圧倒されました。外にでてからもバラバラに行動したり他のチームのお力をもっていこうとしたりとにかくはちゃめちゃめでしたが、叱らず同じチームの仲間として声をかけるようにしました。はちゃめちゃめではあったけど、宝物をたのものに見立てる修行ではトップでも隠することなくやってみましたし、他のチームがやっているのも楽しんでいました。4年生のパワーを十二分に感じた2時間でした。

・誰が一番楽しんだか？はい私です。私は1年生の男の子四人を担当しましたが、1年生ということもあり、忍者の世界にどっぷりとつかっておりました。

協力を必要とされる環境の中で、必然的に声を掛け合い、仲間のことを常に気にしている子どもの姿がありました。また、終始子どもたち笑っていたこと。このことが一緒にいた私にとって、一番楽しめた要因でした。仲間としっかり繋がり、また、自分の思いを表現し、その中で時には折り合いをつけていくという経験ができる忍者って、本当に最高だと思いました。また、機会があれば参加したいと思っています。

・子どもたちの元気さに、ただただ感心しました。お宝を求めて、右往左往しながら元気いっぱい走り出す子どもたちの姿に、本来の子どもの姿を間近に見たような気がしました。子どもはこうでなくっちゃと思いましたが、一緒について走れない自分に年齢も感じながら、気分は子どもと同じで、忍者になりきっている自分にも気づきました。

子どもの頃を思い出しながら、楽しんでしまいました。

・4年生男子のグループに入りましたが、岩に変身から本気になっている4人を見て、こちら素直に忍者の世界に入ることができました。宝物を探す外での修行でも、男の子たちは本気で黒忍者に見つからないように変身していて楽しかったです。でも、本気で探しても宝物（木馬）が見つからなくて、情報も得られず心配になりました。でも、「黒忍者は、宝の場所を知っている。確かめながら回っているはずだ」という情報を得て、黒忍者に近づくと、黒忍者が近づいてきたので皆地藏様に変身して大緊張！黒忍者が宝物の指令を取り上げ、宝の隠し場所を呟いてから、宝の場所の方に行くと、子どもたちはもう秘密を聞いたと喜々として後をつけ、見事に宝物を見つけることができました。苦労しただけに本当にうれしそうでした。

その後の、関所破りへの挑戦も、「馬車にしよう」「いやそれではそのままではだめだ」とやりとりをしていると、ひっくりかえして「馬車に乗る 階段にしては」となり、それを見て「かごにしよう」誰が乗るの「殿様にしよう」

「よし、ぼくらは家来になる」と決まりました。子どもたちのアイデアが、相手を否定するのではなく、ゆるやかに変身していく様子が楽しかったです。自信を持って関所破りに手を上げると、黒忍者から「お前たちはどこへ行くの

だ」の問いに、殿様役の子が「松江城です。」と答えたことで、関所を通ることができ、みんなでそのアイデア

を讃え合い、喜び合いました。しかも、その後のグループの関所破りの決まり文句が「松江城に行く」となっていくたび、自分たちのアイデアがつながっていくことに大満足して、終始笑顔で他のチームの関所破りを見ていました。わずか1時間半でしたが、いいチームになれたと実感しました。初めての「宝探し&関所破り」でしたが、期待していた以上に楽しいものでした。

・いやぁ～、忍者、楽しかったです。とにもかくにも、楽しかった、に尽きるとおもいます。

子どもたちの真剣な笑顔が見られたから？ それもありますけど、それ以上に、自分が素直に楽しめました。

帰宅後、娘から「お父さん、めっちゃ楽しそうやったね」となかばあきれ顔で言われました。正解！

大人忍者なので、いちお、子どもの独創性とかエネルギーを 妨げないように、と意識はしてましたが、のめりこんで、途中、その意識を忘れてしまったり…。

やったー！

すごいね！

おもしろい！ すべてクリアできたと思います。

・この絵は竹ぼうき・・・と思われたがなんと「茶せんだよね」と言い出し、みんながなるほど・・・と納得。

おとな忍者は「えっ？」（でも、茶せんを知っているなんてさすが茶処 松江っ子。）一人の子が「待てよ・・・茶せんの先はくるとカールしてない？」この意見にああそうだ。違うよ！！ ほうきだ！！ じゃあ掃除道具入れを探そう！！となり隠れてはさがし、ここはもうないのでは？というところまで来て「あった！！」 見つけました。紙を見て確認し、よし、OK これだね！ 赤忍者のところへ行こう！！ やっと届けたら、これじゃないかもしれない、黄色忍者に聞いてきて・・・が~~~~~ん！！（たらい回し？） やつとの思いで黄色忍者を探しだし、これは違うの？・・・「忍」のマークが無いから違うのよ。と言われたチーム「ここ」振り出しに戻る…………。

あーあ・・・もうやだ・・・と思ったのはおとなだけ。子どもたちは「もう一回行くぞお！！」あきらめないのです。走れないおとなを気遣う男の子たち。声をかける。待つ。励ます。「もりがまだこないんだ。待てよ。」「ああ、そうなんだ、さがしにいてみるよ。」思い合い 気遣い合い 知恵を出し合い 折り合い たどりつく・・・誰が指示を出すわけでもないのに修行をすすめていけるチカラ。

誰もが一生懸命探しだしたお宝は、他のチームのものも大事な宝。「何を見つけたの？」「へえ～？それなあに？」仲間たちの発表をじっと聞くチカラ。 静かに聞こう・・・なんていわなくても、聞きたいことは聞くさ。遊びの中では誰もが対等で輝ける。教室の箱の中ではできないことなのかなあ？できるんじゃないのかな？・・・といつも思うのでした。

・私のグループの宝物はほうきでした。合図と同時に子どもたちは走りだし、私はずっと後から追っかけました。見失ってウロウロしていたら、子どものひとりがちゃんと私を待っていてくれて手招きしてくれて、嬉しかったですねー。竹ぼうきはギターに変身です。魔女が載るほうきという案もありましたが。ギタリストはひとりで後はボーカル。なんの歌を歌うかなかなか案がでず、つい私はあれはどうかと口をだし反省。旗とりは2回ともあつとい間に座らされてしまいました。子どもたちの勢いはそれは素晴らしかったです。それをみているだけでたのしかったです。

・約2時間という短い時間でしたが、息子にとってとても充実した貴重な体験となったと思います。

忍者の修行という魔法によって、普段は隠れているパワーが引き出されているように感じました。新しい環境に飛び込むこと、仲間と協力し勇気を出して目標を達成すること、その中で、頭や五感や体をしっかり使うことが、自然にそしてのびのび とできていました。忍者の世界は、子どもをひとまわり大きくさせ、自信にもつなげてくれる世界でした。もらった巻物は、机の壁に貼っておきました。

・帰りの車に乗ったとたん、「楽しかったぁ！またしたい！来年も申し込んでね。」と叫びました。

これまで、いろんなところに連れて行きましたが、こんなふうに言ったのは初めてです。よほど楽しかったのだと思います。もちろん、来年も申し込みます。

・たからさがしが楽しかったと何度も言っていました。宝探しやチャンバラがすごく楽しかったそうです。今度は、自分一人でも行くと言っています。

・にんじゃのしゅぎょうを教えてくださいました。たからさがしとちゃんばらがたのしかったです。またやりたいなと思いました。

・土曜日ににんじゃをがありました。わたしが一番楽しかったのは、たからさがしです。なんで楽しかったかという、ふつうのとちがったからです。わたしのチームのたからはすごくかんたんなところにありました。

この事業は、松江市社会福祉協議会から配分を受けた篤志寄付金（香典返し等寄付金）を財源の一部として行いました。ありがとうございました！